



～ ミニトマトの品種比較 ～

営農研修所では、2018年9月(定植)～2019年5月(収穫終了)にミニトマトの品種比較試験を行いました。その結果について報告します。供試品種は、「甘っこ」(丸種株)を対照として、「キャロルスター」(株サカタのタネ)、「ピッコラージュ」(パイオニアエコサイエンス株)を用いました。

(1) 全期間収量

全収量(割れ果等を含む重量)は、甘っこを100とした指数で、キャロルスターで約105、ピッコラージュで約90となりました。

(2) 時期別収量

時期別収量は全品種とも同様の傾向がみられ、12月上旬から収穫が始まり、1月下旬および4月上旬に収量が多くなりました。

(3) 規格および割れ果の割合

甘っこと比較して、キャロルスターは9g以上の果実の割合が高く、割れ果も少なくなりました。ピッコラージュは、割れ果の割合が高くなりました(図1)。

(4) 糖度および食味評価

全期間の平均糖度は、キャロルスターが10.6、ピッコラージュが9.8、甘っこが10.5でした。食味評価は、甘っこ>ピッコラージュ>キャロルスターとなりました。

以上の結果から、キャロルスターは収量が多く、割れ果が少ないことから、本種への切り替えにより25%の増収が見込めます。しかし、品種の切り替えには、食味評価の結果を踏まえた協議が必要であると考えられました。
 <営農研修所：五十嵐>

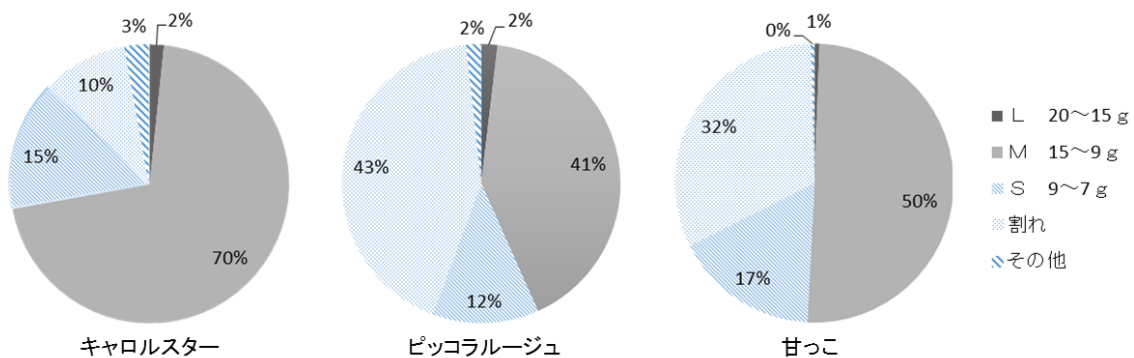


図1 各品種の収穫物の規格割合

今年度の農業者セミナーの開催について

今年度の農業者セミナーは、10月頃の開講予定です。初回は小笠原内外の病害虫情報をテーマに計画中です。また、皆様に役立つセミナーとするため、その他テーマについてはリクエストをいただき検討したいと考えております。ご要望テーマがありましたら、農業センター及び営農研修所までご意見をお寄せください。

各回の詳細は決まり次第、「村民だより」等でお知らせ致します。

～パッションフルーツ栽培の次作に向けた畑づくり～

ここ数年、パッションフルーツ（以下、パッションとする）施設栽培において、過度な連作が原因と思われる生育不良が多く畑で発生しています。高い収量で高品質な果実を安定的に生産するためには、畑づくりが特に重要です。今回は、連作障害を回避するための定植前の畑づくりや注意する病害について説明します。

1 注意する土壤病害について

(1) 萎凋病

生育が衰え、急速に葉が枯れた後、地際部が褐変し、株全体が萎凋し枯死しまう。地際は、写真1のような赤色の子のう殻が見られます。土壤伝染の他に感染した挿穂を利用することなどで被害が広がります。



写真1 萎凋病の発生の様子

(2) 疫病

地際部に発生すると灰褐色の病斑が現れ、軟化腐敗し、地上部全身が急に萎れます。葉では軟化症状が、果実では水浸状の病斑が生じ、腐敗します。

2 土壤理化学性の悪化について

化学肥料の過剰投入や同一肥料の連続投入により、土壤中の栄養成分の偏りや土壤の酸性化・アルカリ化が発生します。さらに、腐植の減少などによる排水性・保水性の悪化などが生じます。

3 連作障害への対策

(1) 深耕・天地返し

毎年、深耕を行うことで、硬く締まった土壌を崩し、パッションの根張りを促進しましょう。また、病害の激発している畑やpH5.0を下回る強酸性の畑では、前作の栽培終了後に天地返しを行いましょう。

(2) 堆肥の施用・緑肥栽培

適切な有機物を積極的に畑に投入することで、物理性の向上・微生物層の増加などの効果が得られます。パッション栽培では、一般的に2～3t/10aの堆肥施用が推奨されています。また、過剰な肥料残りが確認された畑では緑肥を青刈りし畑外に持ち出すことで、土壤中に残った肥料成分の除去が可能です。

(3) 土壤診断による適正施肥

多くの畑で土壤養分の偏りが生じています。それぞれの養分は互いに作用し、バランスが崩れると過剰症や欠乏症が発生します。定植前に土壤診断を行い、畑の土壤養分のバランスを整えましょう。

4 最後に

畑の状態は、所在地や栽培履歴によって大きく異なります。まず、より良い畑づくりを行うためには自身の畑を知ることが重要です。営農研修所・農業センターが行っている土壤診断を利用し、自身の畑の現状把握を行ってください。

*令和元年の第2回土壤診断の実施時期は、7月29日（月曜）～8月9日（金曜）を予定しています。

<パッションフルーツ担当：中村>

～マンゴーの管理作業～

●今年のマンゴー栽培について

今年の小笠原マンゴーは、早咲きも見られましたが、父島・母島共に果実肥大が順調に進んでいます。花芽の形成には、花芽分化期（11～1月）の低気温や土壌乾燥・枝の誘引等のストレス、収穫後の適切な剪定・管理が必要です。昨年は開花が少なかったため、今年は樹体内の栄養が十分にあり、よく着花したものと見られますが、摘果を十分に行わないと来年の開花が少なくなります。また8月の剪定が特に重要です。必ず実施して、東京2020オリンピック・パラリンピックの年に、小笠原マンゴーを出荷しましょう。

●夏の作業（7～8月）

実に袋をかけ日焼けを防止し、収穫を待ちます。袋内に落ちてから収穫すれば完熟果に、少し早めに収穫すれば内地出荷時の品質が安定します。収穫後は剪定をすぐに行います。

●剪定作業（8月）

剪定には樹をコンパクトに仕立てて、作業性向上や栽培本数増加の効果があります。しかし最も重要なのは、栄養の流れる先を減らすことで、実をつけたい枝を充実させ、花芽を着きやすくする効果です。小笠原では8月末までに剪定を終わらせましょう。

剪定はただ短く切り揃えればいいわけではなく、今後枝になる芽がどの位置にあるかを把握し、どのような樹形にしていくか考えながら切る必要があります。

基本的には2芽を残して剪定します。こうすれば1本の枝から2本の枝が伸び、枝数は倍になっていきます（右図）。他の枝の陰になる枝や高い所に伸びた枝等は切除します。

剪定後は切断面に病原菌の侵入を防ぐため「バッチレート」等の癒合剤を塗布します。また施肥と灌水を行い、栄養補給をさせます。

●秋の作業（9～12月）

9月からは水平誘引を行います。枝が上を向いていると秋に新梢が出やすくなり、新梢に栄養が取られるため翌春の花芽がつきにくくなります。そのため枝を水平に誘引して新梢発生を抑えます。誘引後の枝配置も考えて剪定すると良いでしょう。11月からは断水処理を行い、花芽形成を促しましょう。

●冬の作業（1～2月）

2月頃から花芽が伸び、開花が次々起こります。施肥を行い、灌水を再開します。油粕を水で溶き、穴をあけた容器に入れ、樹のそばに置いておくと、受粉昆虫が寄ってきます。花が咲く前までに用意しましょう。

●春の作業（3～6月）

開花が進み、花梗が重くなったら、日に当たるように花梗を誘引します。結実後は施肥を行い、実の肥大を促します。灌水量も増やしましょう。実が重くなってきたら葉50枚あたり1果ほどになるよう摘果し、日に当たるように残した実を上方へ誘引します。

※実際の管理作業で不明点があれば、いつでも農業センター・営農研修所までお問い合わせください。 <マンゴー担当：北山>



～ 第18回パッションフルーツ品評会の審査講評 ～

6月4日（月）に「第18回パッションフルーツ品評会（主催：JA東京島しょ小笠原父島支店）」が開催されました。

今年のパッションフルーツ栽培は、4月から5月の平均気温が例年と比べて低く推移し、5月の日照時間も少なかったため、高温障害による花落ちや着色不良果の発生が少ない傾向にありました。一方で、少雨による農業用水ダムの濁水状況が長引き、十分なかん水が行えず生産者の皆様も大変苦慮されたことと思います。しかし、日頃のきめ細やかな栽培管理が、例年と変わらない高品質な果実生産に繋がったものと思います。

品評会の審査は、JA父島直売所の2階会議室にて、小笠原村役場、小笠原支庁産業課、農業センター職員により行われました。出荷箱部門で審査を行い、出品点数は父島から1点、母島から9点でした。審査項目は果実の形状、光沢、揃い、熟度、病虫害の有無、品種の特性、消費者ニーズ等の商品性で総合的に評価しました。金賞・銀賞に入賞した出品物は、18個の果実の大きさと着色の揃いが素晴らしく、高い栽培技術と丁寧な調整作業を感じられものでした。特に金賞を受賞した出品物は、果実を手にしたときにずっしりと感じる、見た目以上の重量感を高評価し、上位とさせていただきます。銅賞のものは、1果の重さがすべて100g以上の大玉を揃

えた出品物で、果実の大きさや着色の揃いも良好でした。わずかな色ムラについては、審査員の意見も分かれるところでしたが、本会では大玉生産の取組に対して一定の評価を行い、今後の更なる高品質化への期待も込めて、推挙いたしました。



写真 金賞 藤谷農園の出品物

その他の出品物も良品が多く、小笠原のパッションフルーツ栽培における高い技術力と生産者皆様の日々の丁寧な栽培管理を感じる品評会となりました。一部の出品物で、着色不良果や傷のある出品物がありましたので、次年度以降の出品の際にはご注意ください。できればと思います。

生産者の皆様は、出荷時期の拡大や高温障害対策、新たな整枝方法の検討など様々な技術開発に取り組み、常に技術研鑽に励まれています。そのような皆様の絶え間ない努力に敬意を表するとともに、小笠原パッションフルーツの益々のブランド力の向上に期待いたします。

<吉原>

< 審 査 結 果 >

金賞	小笠原村長賞	母島	藤谷農園
銀賞	小笠原支庁長賞	母島	松本農園
銅賞	島しょ農協組合長賞	母島	比企農園